



左：常設展示室廊下。ケースの中で彫刻が転倒 中、右：常設展示室。ガラス作品が転倒し、彫刻が台の上で中央から移動。



東日本大震災レポート

～ 3月11日から7月16日までの美術館 ～

3月11日午後、東日本大震災が発生し、郡山市は最大震度6弱の揺れを観測しました。美術館の当時の状況から復旧、再オープンまでの流れを報告します。

【当日】

地震発生時、企画展示室では「植田正治写真真展」が開催されていたが、10名弱のお客様が観覧中でしたが、職員とともに外庭に避難していただきました。幸いお客様・職員共に負傷者等はありませんでしたが、即時休館となりました。館内設備は、一時断水はありませんでしたが数日で復旧し、停電もありませんでした。

【1階・企画展示室】

開催中だった「植田正治写真真展」は、鳥取県の植田正治写真美術館から作品をお借りしての展示でしたが、幸い作品の落下・破損等はなく、展示技術の堅牢さが大切な



上、中：企画展示室内。可動壁の境がずれているが、作品は無事。スポットライトが数個落下した。
下：常設展示室内。作品は額がずれる程度だった。

【2階・常設展示室】

展示していた美術館の所蔵品約100点は、額のずれや立体作品の転倒などありましたが、落下・破損等はありませんでした。作品は職員で撤去し、収蔵庫に保管しました。被害は天井のひび、温湿度計の落下、固定ガラスケースの

事を実感しました。作品は職員で撤去し、後日無事に返却することができました。被害としては、スポットライト数個の落下、可動壁のずれ、天井のひび、ルーバーのゆがみなどがありました。スポットライトについては、落下防止のワイヤーを今後取りつけることにし、天井は工事が必要となりました。

ガラスの一部破損などがありました。天井は企画展示室と同じく工事が必要となりました。

【収蔵庫】

当館の所蔵品約2200点を保管する収蔵庫内は、小型彫刻の転倒・破損や、絵画作品では絵の具の一部剥落などがありました。被害は軽微でした。

【建物・外部】

当館は平成4（1992）年にオープンし、来年で20周年を迎えます。建物自体の損傷は市の施設の中では比較的軽微でしたが、前述の展示室天井に加え、外部キャノピー（玄関までの屋根付き廊下）の床面のずれ、前庭の歪みひび割